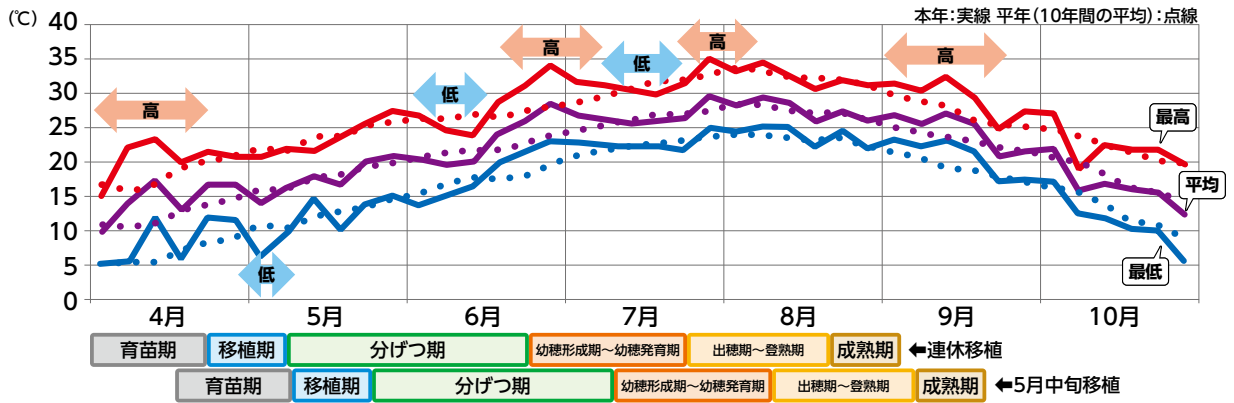


生育ステージ	概要
育苗期	4月2日の最低気温が0℃を下回り、長浜市北部では一部で低温による生育抑制が発生した。その後、4月中旬までは一転して高温となり、苗の徒長やピシウム属菌による苗立枯病、もみ枯細菌病の発生が見られた。4月中旬以降は平年並かやや高温で推移し、概ね生育は順調に進んだ。
移植期～分けつ期 (前半)	連休後半の移植では、低温や強風による植え傷みが生じた。5月は全般的に晴れの日が多かったが、気温の変動が大きく、植え傷みからの回復が遅れ、分けつの発生はやや遅れた。5月中旬の移植では、初期生育は順調に進み、連休に移植したほ場との生育差が小さくなった。一部のほ場で藻類が多発生し、分けつを抑制した。
分けつ期 (後半)～ 幼穂形成期～ 出穂期	6月前半は数日低温の日があったものの、6月後半は気温が平年よりかなり高くなり、分けつが促進され、草丈が伸長した。遅れていた連休移植でも生育が進み、幼穂形成期は平年より早まった。7月に入ると1週間おきにまとまった降雨があり、日照時間は短くなった。節間伸長期を迎えた品種では下位節間が伸長し、倒伏リスクが高まった。葉いもちが広範囲で確認され、7月19日に穂いもちの注意報が発表された。7月23日頃の梅雨明け以降は高温多照となり、出穂期は平年より早まった。8月上旬の豪雨や盆明けの大雨などの影響を受け、倒伏するほ場が多く見られた。また、8月上旬に出穂した中生品種や遅植えの「コシヒカリ」で穂いもちが発生した。
登熟期～ 収穫期	<b>【連休移植(早生品種中心)】</b> 出穂期前後に梅雨明けし、登熟期序盤は高温多照で経過したものの、中盤は日照時間が短く推移し登熟の進みが鈍化した。成熟期は平年より早まった。収穫期まで断続的な降雨があり、収穫作業は遅延する傾向にあった。一方で、晴れ間を狙って作業を行ったことで、極端な早刈りになるほ場も見られた。 <b>【5月中旬移植(早生品種、中生品種)】</b> 登熟期序盤から日照時間は短い傾向であったが、8月末以降は平年並に回復した。成熟期は平年並であった。9月全般が高温で推移したことにより、刈り遅れによる胴割粒の発生が多くなった。

## 令和4年 稲作期間半旬別気象表 (虎姫アメダスより)

### 【気温の推移】



### 【日照時間の推移】

